

研究授業「保育内容－環境Ⅱ」についての考察

川口 めぐみ*

Reflections on an Open Class” Contents of Child Care and Education: Environment II”

Megumi KAWAGUCHI

要約

本稿は、2020 年度後期の発達科学部研究授業「保育内容－環境Ⅱ」についての報告であり、実施概要、検討事項と更なる課題について言及している。研究授業時のテーマは、「乳幼児の安全な環境について」であり、授業内容は、保育施設における事故の実態を知り、保育者として事故防止及び安全対策をする上での環境の配慮や指導の工夫について、受講生が理解を深めることを意図している。

キーワード：保育者養成、保育環境、安全

Abstract

This paper is the report of reflections on an open class “Contents of Child Care and Education: Environment II” in the Faculty of Human Development of Takamatsu University in the latter half of 2020. This report refers to the implementation outline, considerations and further challenges. The theme of the research class was “Safe environments for infants,” and the content of the class was to learn about actual accidents in childcare facilities, and to give consideration and guidance to the environment in order to prevent accidents by using safety measures as childcare workers. The intention was for students to deepen their understanding of ingenuity.

Keywords : Caregiver Development, Childcare Environment, Safety

1. 研究授業の実施

研究授業及び検討会は以下の日程で実施された。

受理年月日：2021 年 7 月 30 日 * 高松大学発達科学部講師

1. 1 研究授業等の日程

(1) 研究授業

日時：2021年1月13日（水）2校時

場所：本館3階307講義室

科目名：保育内容－環境Ⅱ（演習、1単位）

対象学年：発達科学部3,4年生（Aクラス）

当日の受講生は、受講登録者20名に対し、16名の出席であった。

参観教員：発達科学部教員8名

(2) 受講生の状況

① 受講人数

受講生は2クラスに分かれて本科目を履修している。Aクラスは、20名の登録があったが、長期欠席者が2名おり、実質18名での授業を実施している。当日の4名の欠席は、長期欠席者2名、通常欠席の2名である。

② 受講態度

少人数と言うこともあり、全体的に学生間で和気あいあいとした雰囲気の中で授業が進められている。教員の問いかけにも応答的な返答が見られるとともに、互いの意見を受容する雰囲気が感じられるため、個々の発言も多く見られる。

③ 座席

座席は、通常は学籍番号順に座席を指定して着席している。演習形式の授業であるため、授業内容によって、座席の位置を変更しているが、研究授業当日は、通常の座席指定で着席した。

(3) 授業検討会

日時：2021年1月13日（水）5校時

場所：2217演習室

参加者：8名（授業者含む）

2. 「保育内容－環境Ⅱ」の授業計画

授業計画については、本学シラバスに掲載しているが、より詳細に授業内容を説明することと、教育実習Ⅱの日程や受講人数によって授業計画毎年若干の変更が生じることを鑑み、第1回授業時に、「初回配布用シラバス」として学生に周知している。その内容は、以下の通りである。

【授業紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。環境Ⅱでは、環境Ⅰの内容を発展させ、子どもが主体的に環境に関わる力を育む保育について、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付けていきます。そのため、指導案や指導計画の作成、模擬保育を行い、こどもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を

培っていきます。

また、園の室内環境や安全な環境について知識や技術を深めたり、現代的課題や保育実践の動向について学んだりすることを通して、保育構想の向上を目指します。

【到達目標】

1. 幼児の発達や学びの過程を理解し、環境を再構成することができる専門的知識や実践力を身に付けることができる。
2. 領域「環境」の特性及び情報機器や教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
3. 具体的な保育を構想した指導案や指導計画を作成することができる。
4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。
5. 現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、領域『環境』の「ねらい」と「内容」のふり返し
第2回：園の環境をデザインする①（保育環境のデザインと物的環境）
第3回：園の環境をデザインする②（子どもの生活や遊びを豊かにする環境）
第4回：園の環境をデザインする③（室内環境を実際に作成する）
第5回：社会生活とのかかわり（文化や伝統、行事に親しむ保育の実際）
第6回：指導形態とカリキュラム
第7回：子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（指導計画・指導案作成1）
第8回：子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（指導計画・指導案作成2）
第9回：子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際1）
第10回：子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際2）
第11回：子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際3）
第12回：子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際4）
第13回：物や人との関わりを深める環境の構成と保育の展開（映像資料等の活用）
第14回：乳幼児の安全な環境について
第15回：まとめ（これまでの学びの振り返り）

定期試験

【授業時間外の学習】

- ・幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「環境」についてよく読んでおいてください。
- ・事前に伝える課題については、次回の講義開始時に確認をし、その後提出してもらいます。
- ・授業内で模擬保育をするので、教材研究をしっかりと行い、期日までに指導案等を作

成して下さい。

【成績の評価】

- ・ 関心・態度（10%）：グループワーク中の積極性を評価します。また、グループ発表では、模擬保育等の成果を教員及び他グループが評価します。
- ・ グループ活動・ワークシート及び事前課題・指導案等の提出（60%）：グループ活動では、グループワーク中の積極性を評価し、グループ発表では、模擬保育等の成果を教員及び他グループが評価します。提出物については、各授業で出されるワークシートの取り組み、模擬保育にむけた計画や指導案等の提出物の成果で評価します。授業の振り返りやレポート等の提出物は、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりします。提出期限が守られていることは必須です。
- ・ 定期試験（30%）：講義内容を理解しているか評価します。

【使用テキスト】

- ・ 文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【参考文献】

- ・ 「保育所保育指針」（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）
- ・ 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年 3 月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
- ・ その他、授業で適宜紹介します。

【受講のルール】

- ・ 毎回授業最初に参加をとりまします。遅刻者は申し出てください。
- ・ 公欠の場合は、欠席届を必ず提出してください。
- ・ 携帯電話・スマートフォンは使用しないこと。ただし、課題遂行のために必要な場合は許可を得て使用することは構いません。
- ・ 授業中に食事はしないこと。飲み物は飲んでも構いません。
- ・ グループワーク等を実施していくが、三密にならないように感染予防を徹底しましょう。
- ・ 授業を欠席した場合は、課題及び授業の資料等を次の授業までに研究室に取りに来てください。

3. 本時の授業について

3. 1 授業計画

(1) 講義テーマ：乳幼児の安全な環境について

(2) 授業の目標

- ・ 保育施設での事故の実態や現状を知り、保育所保育指針で保育施設における「事故防止及び安全対策」について理解する。
- ・ ヒヤリハットの事例から事故の予防と対策について考え、乳幼児の安全な環境について理解を深める。

(3) 指導案 (指導内容)

時間	講義・学習内容	準備物など
10:40	○挨拶、出席確認 ・体調、マスク着用確認	・PC、OHC
10:45	○前回の振り返り ・前回の授業のワークシートを返却する。 ・学生の意見をまとめたプリントを配布し、フィードバックする。	・前回のワークシート及びまとめのプリント配布
11:00	○保育施設での事故の現状 ・事故の事例や内閣府の事故調査から、事故の現状について知る。 ・保育所保育指針「事故防止及び安全対策」の内容について理解する。	・スライドの資料配布 ・ワークシート配布
11:20	○事故の予防と対策 ・ヒヤリハットについて説明をする。 ・ワークシートで、ヒヤリハットの6つの事例から事故の予防と対策を個々もしくはペアで考える。	・机間巡視
11:40	・6つの事例について予防と対策を順番に発表し、他者の意見はワークシートに記載をする。 ・まとめと指導を行い、安全な環境について理解を深める。	
12:00	○連絡事項 ・ワークシートが未完成の学生は、今日中に研究室ポストに提出する。 ○次回の授業について ・来週の授業内容についての予告 ・日程：1月22日(水)2校時	・保育所保育指針持ってくる
12:10	○消毒作業、授業終了	

(4) 配布資料

- ① 前回の講義内容についてのフィードバックの資料 A4 (裏表) 1枚
- ② 本講義のスライド資料 A3 (裏表) 1枚
- ③ ワークシート A4 (裏表) 1枚

(5) 使用機器

ノートPC, OHC

4. 検討会並びに参加者からの意見

(1) 授業を積極的に評価できる点

① 教育内容

- ・乳幼児の安全な環境について、課題提示後の導入において、身近な香川や岡山の喫緊の事故事例や増加状況を提示するなどして、危機意識を高めてから展開に入っていました。
- ・学生たちに危機意識を持たせる効果的な内容であったと思います。中でも、後半の事故事例の原因の分析や予防や対応策を考えることは欠くことのできない学習活動だったと思います。
- ・新しい資料など最新のデータを使って、学生に現状を説明していた。
- ・保育所保育指針などの根拠についても、丁寧な説明がなされていた。
- ・演習では、具体的な事例が示されており、実習を経験している学生がよりイメージしやすいものであった。
- ・ポイント押さえて、分かりやすくまとめられており、学生の危機管理の意識を高めるものとなっていると感じた。
- ・事例、事故報告の各種資料、保育所保育指針、ヒヤリハット資料等、基本的な内容が十分盛り込まれていた。
- ・事故が実際に起こった状況とそれ以前のヒヤリハットの状況とを具体的に提示したのは良かった。特に後者を強調したことも良かった。
- ・乳幼児の安全な環境について、具体的な事故事例や内閣府の事故件数等、具体的な資料を準備していたため、学生にとって分かりやすく、興味関心を高めるのに効果的であると感じた。

② 授業方法

- ・教材をパワーポイントで作成・提示し、学生たちに語りかけながら授業を行っていました。
- ・DVD視聴は見せっぱなしではなく、内容ごとに設問を設けたワークシート用意し、回答・提出させ、翌週に全員の意見等を集約したプリント（ワークシート）を配布し、前回のフィードバックを行っていました。
- ・前回の復習から授業に入り、本時の課題を提示して、前回からの連続性を意識させるとともに本時の課題への見通しを持たせた展開としていました。
- ・前回の授業のフィードバックが丁寧になされている。1回1回の授業が関連しているという授業の繋がりも、学生に意識させやすい。
- ・学生の提出物が、提出・評価だけで終わらず、振り返りに活用されている。グループ活動や意見交換が難しい時期だからこそ、個々の意見を資料としてまとめることで、共有しやすくしている。
- ・授業で使用するパワーポイントの印刷資料が配布されており、学生が授業内容を把握しやすくなっている。

- ・保育所保育指針や資料などの説明の後に、学生自身が考える演習があり、学生の集中が続きやすかったと感じた。また危機管理の意識を高めてから、その後の演習へと繋がっており、実践的に考えられる授業の流れとなっている。
- ・演習のなかで、個々の発表の機会を作っていた。教員が全体に問いかける場面では発言が少ない学生も、個々に指名されると、自分の意見を発言できていた。全員に発言の機会があり、受講学生全員が授業に参加している雰囲気になっていた。個別に演習に取り組んでいる時間に、個々の学生に声をかけるなどして、対応していた。また、一人ひとりの学生の回答を認め、学生の回答を生かして、言葉を補うなどして、説明がなされていた。それらのことから、学生も安心して、発言しやすくなっていると感じた。
- ・学生の回答を聞いていても、一人ひとりが事例を検討し、よく考えられていると感じた。
- ・教員自身が、保育士として現場で働いていた際のエピソードが話されており、学生が想像しやすく、また集中が持続することに繋がっているようだった。
- ・まず、最初に行った前回のフィードバックは良かった。本論に入る際に事例から入ったのも意識をそちらへ向かせる効果があった。
- ・授業開始時の機器のトラブルは別として、ppt や資料など視覚的な方法が取り入れられていたこと、最後のヒヤリハットの事例から予防と対策を考えさせる進め方も、流れとしても受講生の考えをまとめるにも良かった。
- ・効果的にワークシートが活用されており、個々の学生が真剣に取り組んでいた。

③ その他

- ・マスクをしていても、声が聞き取りやすく、授業全体を通して、明るく穏やかな雰囲気があった。学生も、日頃から安心感をもって、参加できているのだと思われる。その安心感と発言の機会があるという緊張感が程よい授業雰囲気となっているように感じた。
- ・全体に授業の展開はわかりやすくて良かったと思う。
- ・ワークシートに書いたことの発表についての先生の助言は適切であった。
- ・指導者の保育経験が授業の中に生かされており、学生には大変参考になっていると感じた。

(2) 授業の改善にかかわる点

① 教育内容

- ・内容が多くて詳しく解説することができていなかったように思う。もう少し精選した方が受講生の理解をしっかりとさせるにはいいのではないかな。
- ・保育所の内容が主であったが、ほぼ同様かもしれないものの、幼稚園の具体例もあってよいのではないかな。
- ・また、安全な環境に関する文科省の資料はないのでしょうか。

② 授業方法

- ・コロナのためにグループやペア学習は取り入れづらいですが、後半の予防と対策を考え

る場面で、ワークシートに記入後に順番に指名し、先生が解説を加えていっていました。この場面で、ワークシートの記入は後回しにしても、先生と学生たち、学生たち同士の意見のやりとりがもう少し活発に行うことができたらいいなと思いました。

- ・小学校では、おおむね“主体的で対話的な学び”となっていると思いますが。中学校・高等学校では、受験のためもあって、教師主導の“効率的に教え・理解させる授業”が中心となって、生徒たちが意見を述べたり、話し合ったりすることが無くなって、学生たちも“もの言わぬ授業”に慣れっこになっているように思います。こうした授業は、一人の教員、一つの授業では実現が難しいので、高松大学では、どの先生も、どの授業でも、意見を述べさせたり、話し合わせたりしたらよいと思いました。
- ・分量をもう少し精選して、事例の状況説明などについて丁寧な解説が欲しかった。受講生の理解が十分ではなかったように思う。
- ・資料を先生が読んで解説していたが、学生に読ませる時もあった方が集中するし、読む力にもなるだろうと思った。時間がかかるので難点はある。
- ・リスクマネジメントとして、最悪の事態を想定した対応についても扱えばよかったのではないか。また、重大事故が起こった場合の責任問題等について、裁判における判決事例等を示し、そこから、保育現場における安全管理のポイント等を考えていくのもよいと思う。
- ・内閣府の資料の読み取りについては、教師の問いかけに一部の学生が答えていたが、広く意見を求めながら、学生の受け止めを確認する中で理解を深めたい。
- ・保育者の使命や責任についての意識を高めるために、事故発生事例の具体的な経緯について示し、もう一步踏み込んで議論してもよかったのではないか。

③ その他

- ・学生が発言する際の声が小さい。川口先生のようにはっきりした発言ができるよう指導することも必要だと思うので。自分の授業の時にも言うのだがなかなか効果が出ない。
- ・表の資料が小さかったが、受講生は読めたのだろうか。ただ、スクリーンで確認できたかもしれない。

(3) 授業全体の感想

- ・授業開始前、開始直後の会話から学生たちとの極めて良好な人間関係を伺うことができました。
- ・学校安全・交通安全など安全指導は、学校・園におけるすべての指導で、最も大切な指導だと思っています。私も中学校勤務の折には、人一倍気を遣いました。例えば、交通安全では、生徒たちの通学風景（自転車通学生の右側通行や並進の様子）を隠し撮りし、学校ブログにUPするなどして厳しく注意をしていました。
- ・授業の始めに学生とコミュニケーションをとったり一人ひとりの名前を読んだり、学生との関係が築かれていると感じた。今回の授業の最初にはパソコントラブルがあったが、落ち着いて対応し、その間も学生とコミュニケーションをとっていた。そのような

落ち着いた雰囲気が学生からの信頼に繋がっているのだろうと改めて感じた。

- ・和やかな雰囲気で始まったが、また、トラブルがあったので集中できないかと思っただが、本論に入ると受講生はよく集中していた。
- ・ワークシートに書いたことを発表した、意見がしっかり出た。
- ・学生の授業への参加姿勢が前向きであり、日ごろの川口先生の指導の充実ぶりを伺い知ることができました。
- ・環境という領域は、教育・保育のベースとなるものであるが、その幅は広く奥も深いことから、その充実は簡単ではないと感じています。それだけに保育者の力量に個人差が生じやすいとも感じます。私自身が大変勉強になりました。

5. 今後の課題及び取り組み

今回の授業では、発達科学部の先生方から貴重なご意見やご指摘をいただき、今後の授業への改善点が明確になった。

一点目は、授業内容の精選である。シラバスの授業計画では、「乳幼児の安全な環境について」の内容は、15回の講義のうち、1回の講義で扱うこととしている。しかし、保育所保育指針（2017）では、「保育所保育において子どもの健康及び安全の確保は、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本であり、一人一人の子どもの健康の保持及び増進並びに安全の確保とともに、保育所全体における健康及び安全の確保に努めることが重要となる」と記載されており、先生方からのご意見にもあるように、保育者を志す学生にとって安全な環境への配慮や指導の工夫を考えることは、保育者養成校にとって最も重要な指導内容となる。そういったことを踏まえると、今回の授業内容は、保育施設等の現状から保育所保育指針の内容の確認、ヒヤリハットの事例検討と授業内容が盛りだくさんであったように思う。また、事例検討についても、6つの事例を取り上げてしまったので、一つ一つの事例についての考察が薄くなってしまったように感じる。今後は、安全な保育環境についての講義を2回分取り入れるなど授業計画を見直したり、保育施設で実際に起こり得る可能性が高い事例について絞って検討するなど授業の指導内容を精査したりして、学生の学びが高められるような授業内容にしていきたい。

また、検討会において、「県内の保育施設の実際の事故の事例を取り上げることは、学生にとって安全な環境について考えるきっかけにはなるが、卒業生や身近な教員でその施設に関連する人がいるかもしれないので、情報の取り扱いには十分な配慮が必要である」というご意見を頂いた。個人情報等には気を付けて授業を進めているつもりではあるが、事例内容によっては、施設や個人を特定できる場合も考えられるので、授業で取り扱う際には、事前の調査や準備をしっかりと行い、内容を確認して取り上げる必要がある。

二点目は、授業方法の工夫である。本授業は、演習の授業であるため、毎回の授業で、必ず個々で考えたり学生が話し合ったりして発表する機会を作っている。しかし、コロナ禍であったため、グループワークが実施しづらく、意見交換や議論する機会を思うように作ることができていなかった。今回の授業では、ペアで話し合ったあと、指名して発表す

る授業展開とした。しかし、先ほども述べたように、90分の授業では取り上げる内容が多かったこともあり、意見交換や議論をする時間が十分に担保できなかった。先生方からは、「一つの事例をじっくり議論してもよかったのではないか」というご意見を頂いたり、Google classroom を活用したグループワークの方法などをご教授頂いたりしたので、効果的な学習となるように授業方法を工夫していきたい。また、時間に余裕をもって授業を進めていけるように、時間配分にも気を付けていきたい。

大学教員として、授業デザインや授業方法について未熟な部分が多々あるため、教材開発も含め、学生の学習成果が高められるようなより良い授業が展開できるようより一層研鑽に努めていく。

最後に、本研究授業に対する先生方のご指導と、意欲的に授業を受講してくれた学生に、心より感謝いたします。

引用文献

- ・厚生労働省（2017）保育所保育指針 平成 29 年 3 月告示